

(11) イシガメ (爬虫類カメ目イシガメ科)

① 分布

最下流域を除く全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 田, 池, 畑, 里山など

③ 採録した呼び名

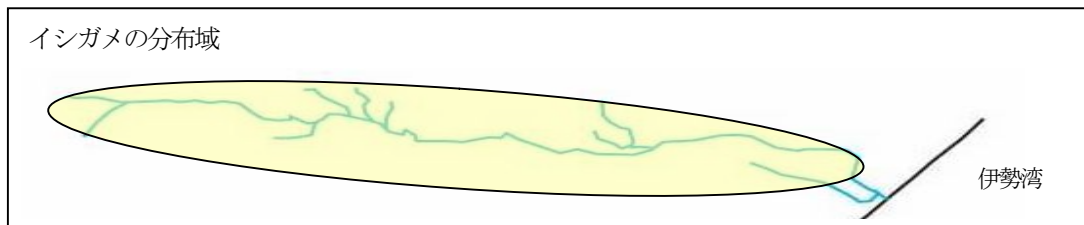
- ・ 共通 カメ (全集落)
- ・ 幼体 ゼニガメ
- ・ 大型体 ドンガメ
- ・ その他 イシガメ

④ 分布と呼び名について

最下流域を除く川, 水路, 田, 池など普段水がある所だけでなく, 産卵などのために畑や里山などでも見られたという。

呼び名としては, 一般的な呼び名である「カメ」を含め, 幼体名, 大型体名など計4種採録した。

全集落から採録した「カメ」のほか, 3種の呼び名もほぼ全集落から採録しており, 流域で広く使われた呼び名であったようである。



(11) -2 スッポン (爬虫類カメ目スッポン科)

① 分布

中下流域を中心とした集落

② 主に見られた場所

川, 池など

③ 採録した呼び名

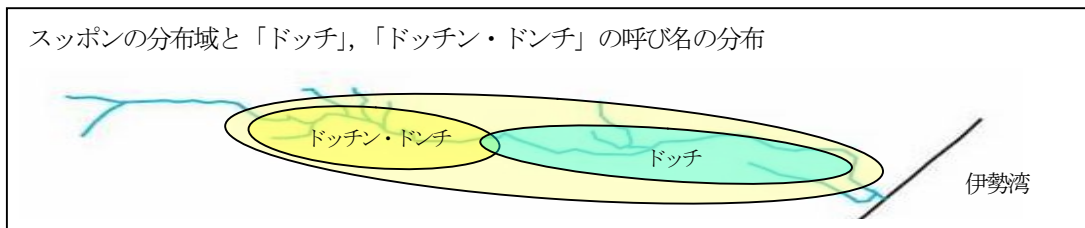
- ・ 共通 スッポン (全集落)
- ・ その他 ドッチ, ドッチン, ドンチ

④ 分布と呼び名について

主として中下流域の川や池などで見られたが, 生息数は少ないためか, 人目に触れることは少なかったようである。

呼び名としては, 生息の有無にかかわらず標準和名である「スッポン」を全集落から採録したのをはじめ計4種採録した。

最上流域の集落を除き, かつてはほとんどの集落で「ドッチ」, 「ドッチン」又は「ドンチ」と呼ばれていたようであるが, こうした呼び名は, 当時から戦後にかけて次第に「スッポン」という呼び名に置き換わったようである。



⑤ その他

実際にスッポンを見かけることは稀であったようであるが, 当時の深くて危険な川や池で遊ぶ子ども達に対して, 「ドッチに尻を抜かれるぞ」と注意を喚起する言葉としてよく使われていたようである。

(12) サンショウウオ類 (両生類サンショウウオ目サンショウウオ科)

① 分布

中下流域の集落

② 主に見られた場所

周辺山林の谷あい部分

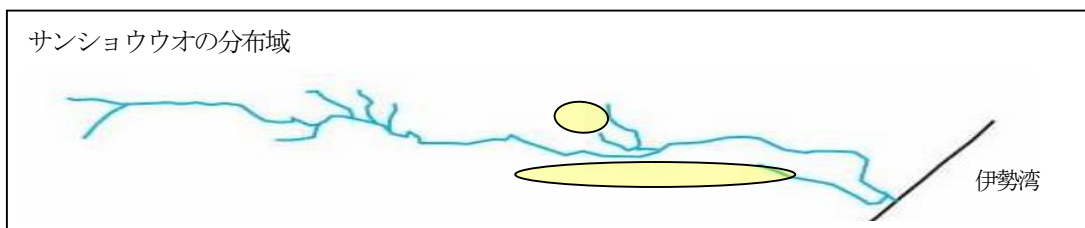
③ 採録した呼び名

- ・ サンショウウオ

④ 分布と呼び名について

中下流域のいくつかの集落において、カスミサンショウウオとみられる小型のサンショウウオが川の右岸、山林の谷あい部分で見られたという。また左岸である長法寺町においても地元の山で見られたという話を採録した。

呼び名ははっきりとしないが、1935年当時にも「サンショウウオ」という認識が一部の集落にあったようである。



⑤ その他

中流域の右岸にある山林の谷あいには現在も生息しているという話が聞かれた。

(12) -2 オオサンショウウオ (両生類サンショウウオ目オオサンショウウオ科)

100名の聴き取りでオオサンショウウオとみられる話を1件採録した。

1948年頃に亀山市田茂町内にある音瀬橋上流の淵で見られたという。

→ 6 別紙「オオサンショウウオ調査票」参照



(12) -3 アカハライモリ (両生類サンショウウオ目イモリ科)

① 分布

最下流域を除く全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池, みず田, 湧水等

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 イモリ
- ・ 体色 アカイモリ, アカフン
- ・ その他 カンス

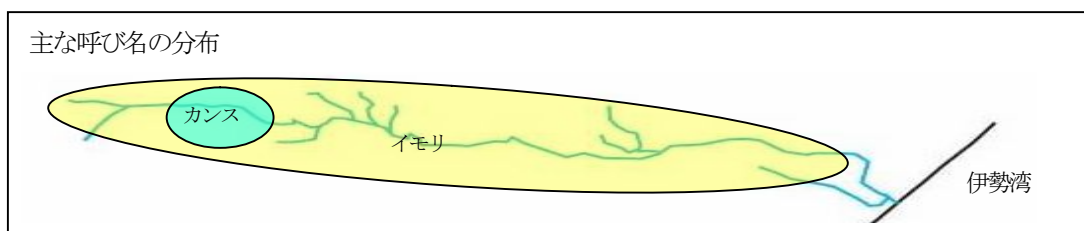


④ 分布と呼び名について

最下流域を除く川, 水路, 池, 湧水, みず田などでよく見られたという。

呼び名としては, 一般的な呼び名である「イモリ」をはじめ, 腹が赤いことから名付けられたものなど計4種採録した。

ほぼ流域全域で「イモリ」と呼ばれるとともに, 上流域では「カンス」とも呼ばれた。



⑤ その他

現在は最上流域以外で見かけることは珍しいが, かつては最下流域を除く全域に分布していたことが伺われる。

(13) 種類不明魚

① カラスドジョウ

鈴鹿市越知町で採録した呼び名である。「川、水路にいる比較的小型のドジョウで、体のぬめりが少ない」という説明があったが、魚種ははっきりとしなかった。

② ヤナギドジョウ

中流域の集落で散発的に採録した呼び名である。比較的小型のドジョウのようであるが、魚種ははっきりとしなかった。

③ キンメバエ

河芸町西千里で採録した呼び名である。色の抜けたメダカ、又はカワバタモロコと考えられるものの魚種ははっきりとしなかった。

④ ニマイゼンタ

鈴鹿市五祝町木鎌で採録した呼び名である。ヤリタナゴである「センタ」と区別された別種のタナゴ類であり、「ヤリタナゴより少し大きく、太く、食べられる魚」という説明があった。

⑤ ヤナギゴイ

旧天名村を中心とした集落で採録した呼び名である。下流域であり、コイという名の付く呼び名であることからニゴイではないかと考えられるが、古い呼び名のように、魚種ははっきりとしなかった。

⑥ ヤナギバエ、ヤナギバヨ、ヤナギムツ、ヤナギモツ

中下流域の多くの集落で採録した呼び名である。これらの特徴は、少し赤みを帯びた20cm程度となる比較的大型魚であるようで同一魚種と考えられる。アブラハヤ類、カワムツ、ウグイの可能性を前提として聞き取りを行ったが、魚種ははっきりとしなかった。

⑦ ヨメサン

芸濃町林(町・殿町)で採録した呼び名である。婚姻色の出た魚類ではないかと考えられるが、魚種ははっきりとしなかった。

(14) その他

① ミトジャコ、ミトバエ、ミトバヨ(流域の各集落)

水戸下の小魚やエビ

② タビジャコ(関町萩原)、ニガ(芸濃町楠原)

池などで取る小型のモロコなどの小魚